

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200382
法人名	株式会社 サンライズ
事業所名	グループホーム伸&茉衣
所在地	唐津市佐志字石ケ元2119-2 (電 話) 090-5736-2626

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月26日	評価確定日	平成 20年5月9日

【情報提供票より】(平成20年3月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人 , 非常勤 0 人 , 常勤換算 5.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木 造
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,160 円	

(4)利用者の概要(3月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低 68 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	唐津第一病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれ、海山の景観や季節の移り変わりを身近で感じられる環境に入居者は過ごされている。入居者の快適な生活づくりをめざして職員全員で意見を出し合い、サービスの改善等を積極的に行われている。また、系列の病院、グループホーム、施設やデイサービスとの交流や連携を最大に活かした取り組みが実施されている。「入居者の立場に立ち、思いやりを持って、尊厳と安らぎのある生活を」という理念のもと、入居者と職員と和気あいあいとした雰囲気の暮らしが提供されている。系列事業所の利用者からなる“おたっしやコーラス隊”を形成し、市の福祉祭りや地域の保育園を訪問して歌を披露するなど、地域との交流にも努められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 食事のあり方については、ホーム内で入居者とともに取り組み、可能な限り一緒に食事をするなど、前回の課題に対して改善に向けた取り組みがなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価・外部評価の意義を全職員が理解し、入居者の生活の質を向上させるための改善案や新しい取り組みの提案がなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市担当者との連携や調整も十分にされており、家族への行事案内やサービスの取り組み状況等の報告を行い、地域に密着したグループホームづくりに取り組まれている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会を通じて毎月1回は家族と話す機会をつくり、日頃の生活の状況や健康状態、預かり金等の報告がなされている。この他にも便りや行事の写真等を送り、家族との関係づくりに取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者でコーラス隊をつくり、地域にある保育園や敬老会等に行き、歌を披露し地域交流を積極的に行い、また、地域のイベントにも参加されている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の立場に立ち、思いやりを持って、尊厳と安らぎのある生活を」という理念を作りサービスを実行されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念を確認し、日常生活の中でも常に理念を念頭におきながら日々の業務に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者でコーラス隊をつくり、地域にある保育園や敬老会等に行き、歌を披露し地域交流を積極的に行い、又、地域のイベントにも参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を全職員が理解し、入居者の生活の質を向上させるための改善案や新しい取り組みの提案がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の予定やサービスの取り組み状況等の報告を行い、地域に密着したグループホームを目指し、情報交換の場として活用されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも福祉祭りでの交流や入居者のことで市役所へ相談等に出向き、市の担当者との情報交換がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を通じて毎月1回は家族と話す機会をつくり、日頃の生活の状況や健康状態、預かり金等の報告がなされている。この他にも便りや行事の写真等を送り、家族との関係づくりに取り組まれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、職員からも積極的に会話をし、意見や要望等を聞きだせるように働きかけがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を採用する時には、認知症の理解を十分にしてもらってから就職してもらうように努められている。又、各ユニットの職員を固定し、顔なじみの職員によるケアを実践されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施と、同じ系列のグループホームや老人保健施設等の年間研修スケジュールに合わせ合同研修が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市からの企画により、ネットワークづくりが進められている。また、管理者は同業者との情報交換に努め、サービスの質の向上に努められ、同法人内での交流も活発である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報を基に、本人との関係づくりが行われ、安心できる人間関係や環境づくりが構築されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や催し物では、入居者と職員と一緒に歌を唄ったり、同じ時間を共有しながら家族や友人のような関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いろいろな生活場面の中で、入居者との会話や表情、行動等から気持ちを汲み取り、希望や意向が言いやすいように努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活や家族との会話を通じて情報収集を行い、又、全職員の気づきを促し、カンファレンスで話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の評価や随時入居者のできること・できないことを把握し、現状に合わせ介護計画の変更が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別なニーズに合わせ、できる限り入居者や家族の希望に合わせサービスを実施されている。(外出支援、買い物、通院介護・墓参り等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には母体の病院で受診しているが、入居以前からかかりつけの病院がある場合は、そのまま継続して受診ができるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については家族との話し合いを常時行われ対応されている。本人・ご家族の同意のもと、終末期は医療機関へ移行する方針を職員とともに共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝礼やミーティング等でプライバシーに関する話し合いを行い、入居者の人格を尊重した介護が実践され、職員への指導が行われている。また、個人情報等の書類の保管は、事務所にて適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりのペースを尊重し、可能な限り「その時、その時」の希望に合わせ個別性のある対応に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューづくりも入居者に相談しながらおこない、おやつ作りや調理、盛り付け、片付け等も職員と一緒に楽しみながらできるように支援されている。又、職員も入居者と一緒に食事を摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、2ユニットで別々の入浴日を設定しており、入居者の希望により、いつでも入浴ができるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事を取り入れ、各入居者が好きなこと、興味のあること(花植え・野菜づくり・コーラス・踊り・ドライブ等)を理解し、目標を持ち楽しく生活できるように支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもりがちな生活にならないように、各入居者の希望に合わせ、外出支援(散歩・買い物・ドライブ・催し物への参加等)が頻繁に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関等の鍵はかけず、いつでも外出できる環境になっている。外出願望のある入居者の行動は職員が把握し、常に外出に付き添っていく支援が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方や隣接している老人保健施設の協力のもと、年1回の夜間想定避難訓練(実際にサイレンを鳴らし、消防署への通報訓練等も行う)を実施されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員でメニューを話し合い、栄養のバランスを検討されている。又、同じ系列のグループホームの職員によるアドバイスがなされている。食事、水分摂取については、必要に応じて支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染んだ音楽を流したり、室内には観葉植物や季節が感じられるように草花を飾る等、居心地のよい環境がつくられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの環境づくりにおいて、自宅で使用されていた鏡台や箸・湯呑等の使い慣れた馴染みの物を傍に置き、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		